

あ・うん

金剛禪総本山少林寺広報誌

vol.
50

2017 睦月・如月

謹賀新年

少林寺拳法創始70周年の幕開けです。
慈悲心を備えた自信と勇気と行動力で架け橋をつなぎ
笑顔あふれる幸せの絆を広げていきましょう。
皆様のご活躍、ご多幸を祈念いたします。

金剛禪総本山少林寺代表 大澤 隆

創始70周年特集号





金剛禪総本山少林寺 代表 大澤 隆



金剛禪総本山少林寺宗務局長 坂下 充

特集①

道院を、往来のある賑やかな架け橋に

戦後の混乱期に少林寺拳法が誕生し、ついに70年を迎えた。時とともに世相も変化すれど、社会の混乱は今も変わらず、生きる価値を見いだせない人々が多い。そんな人々に寄り添い、生きる力をサポートする教団としてわれわれは今の社会にどう向き合うか。宗由貴師家^{しけ}と大澤隆代表、そして坂下充宗務局長が語り合った。

自然体の道院布教

局長 いよいよ少林寺拳法創始70周年の記念すべき年となりました。われわれ金剛禪教団がこの節目をどう捉え、どのような道院活動を展開すべきか、師家および代表の考えをお聞かせください。

代表 言うまでもなく道院長は、全国における金剛禪布教と人づくりの「要」であり、その拠点として道院があります。先般10月の教区長会議でもお話ししましたが、道院長の先生方にはこれまでの活動を振り返っていただきつつも、ぜひご自身の持たれる長所や得意分野を生かし、闊達自在な道院活動を行っていただきたいと思っています。

師家 私はよく「自然体」という

言葉を使うのですが、これには「自由で柔軟な発想」という意味を含んでいます。どうしても人は固定観念に縛られがちです。考えが凝り固まってしまうと、視野は狭まり、行動範囲も知らず知らず制限されてしまうものです。

開祖が目指した世の中、理想境とはどういうものだったのか、そこさえ理解していれば、発想も展開方法も、さまざまいいんです。どうか自然体で、そして自信を持って、このすばらしい教えを広げていってほしいですね。

局長 開祖は金剛禪を、「釈尊の正しい教えを現代社会に生かす道」と説かれていました。これもやはり、既存の概念にとらわれない自然体のスタンスで、「今」の世の中に変化させていこうという思いからだったのでしょうか。

師家 開祖は中国にいたところから

2016年11月4日
金剛禪総本山少林寺
東京別院にて
担当／永安正樹

「一定先生」と呼ばれ、皆に慕わ

れていました。考えがぶれない、言うことをつど変えない、ということ

で信頼されていましたが、実は相談してくる人たちによって、そのアドバイスは一つ一つ変えていたようです。対機説法ですね。相手を見極め、その人に最も適切な言葉を選んで答えられていたと思います。

局長 技もそうだったと聞いています。その人の体格や性質、得意不得意を瞬時に見抜かれて、その人に合った技の指導をされていたのだと。開祖から直接手を取って教わった先生方の技を拝見すると、同じ技でもそれぞれ微妙に捕り方やコツが異なるのは、そういった理由なのでしょう。

代表 道院長もそうあるべきで、それぞれの道院長に得意不得意があつて、さらに人生経験、年齢、社会的地位や家庭環境までさまざまなのですから、それをいい意味で分析して、自分にできることをどう生かすか。そしてそれを、それぞれの特性ある地域でどのように布教していくかを考えながら、十人十色の道院活動を展開してほしいと思います。

師家 100人の道院長がいれば、100種類の特徴ある布教スタイルがあつていいんですよ。

安心できる、安心させる道院長

局長 師家が「自然体」でしたら、代表は、よく道院長を「町医者のように」という例えで使われています。町医者といえ、先日こんなことがありました。

風邪気味だったので、あるお医者さんに行くと、診察室に入るなり、看護師さんが注射を用意して立っているんです(笑)。そしてお医者さんはろくに目も合わせずに簡単な問診をして、「はい、注射しましょう」で次の患者さんと呼ぶんですね。対して別の、よく知っているお医者さんは、いつも丁寧な様子を聞いてくれて、「うん、大丈夫、大丈夫」と大きく温かい言葉をかけてくださるんです。すると不思議なもので、たつたそのひとりで、本当に大丈夫になった気がしてくるんですね。代表の言われている町医者のような道院長とは、こういう先生のことなのかと。

師家 その先生は私もよく知っている方です。確か診察室にも大きく「大丈

夫」って額が掛かっているはずですよ(笑)。

代表 恐らく最初のお医者さんは、「すでにやる事が決まっている」んでしょう。誰が来ても同じ対応。しかし、あのお医者さんは、患者さんをまず安心させて、それからその人に合った診察をされています。

道院長も同じで、「道院ですることは鎮魂行、準備体操、基本……」と決められたことをルーチンワークのようにするだけではなく、道院に来られた方をまず受け止めて、それから何を求めてこられているのかを一人ひとり見極めて対応できれば素晴らしいですよ。

師家 ましてや今では、そんな方が増えてきています。「武道」を求めて来られる方ばかりではないですから。

2025年問題をどう捉えるのか

局長 先の道院長研修会や教区長会議では、超少子高齢化社会による2025年問題を想定した講義や議題があり、道院長や教区長に大きな反応があつたようです。

後期高齢者の増加による、介護医療費の膨大な国民負担など、これまでになかった状況がいろいろと生じ

る社会を迎える中、われわれ教団はどのように対応していくべきでしょうか。

師家 経済の圧迫は確かに市場を縮小させ、余暇活動の減少にもつながることでしょう。各家庭の家計においても、いわゆる趣味・習い事といった科目から切り離されることが予想されます。

そのときに、私たちの道院活動について、これまで門信徒や保護者の方々がどのように受け止められていたのか明らかにしたいと思います。

局長 われわれの活動目的は決して「技芸教授」ではありませんが、世間の目には実際どう映っていたのか、試されるときに来たということでしょうか。

師家 少し違って、実は私は、プラスの評価を期待しているんです。全国のだ道院長は、われわれの思っている以上に豊かな道院活動に邁進まいしんされています。儀式行事の折々には地域の方々をお呼びし、専有道場を憩いの場として開放するとともに、法話を行い、集う方々に安心を提供される先生方がたくさんいらっしゃることを私は知っています。また健康プログラムを実施し、高齢者の健康寿命の引き延ばしに貢献されている道院も数多く

あります。

代表 先日の道院長研修会で、「絵本で広げよう金剛禅プロジェクト」を發表しました。アンケートを見ると、それ以前からずっと絵本の読み聞かせをされていた、という道院が少なくなかったことが分かりました。地域とのつながりに、絵本の読み聞かせが二役買っているのだそうです。また、少林寺拳法の技の理を生かして介護に役立てている、という門信徒もすでにおられます。地域で大変活躍されているそうですよ。

師家 そうなんです。つまりこれまでの先生方の、地道で小さな積み重ねの活動が、2025年問題で逆に明らかになって、少林寺拳法に内在している、地域社会に住まう人々の不安を解消する力が、これを機会に広く知らしめられる可能性があるということなんです。

だからこそ、ピンチはチャンスであり、今一度、私たち自身で、その内在するものを掘り起こしたいと考えています。

代表 そのためにも、もっと自由な取り組みや工夫があつていいのです。例えば門信徒が各ライフスタイルに合わせて、自由な曜日や時間帯での修練ができるよう、近隣の修練日や

時間帯の異なる道院が連携して門信徒を受け入れたり、休眠したあともずっとつながりが持てるよう、インターネットなどのさまざまな情報ツールを活用したり……。

師家 そんなふうにも夢を膨らませていくと楽しいですよ。全国でお会いする元気のある道院長は、皆さん想像力が豊かで、前向きな夢を持っていらっしゃると思います。そしてそれを現実にする行動力に溢^{あふ}れておられますね。

70周年のテーマ 「架け橋たれ」

局長 夢を語るといえば、今年はいよいよ少林寺拳法創始70周年の記念事業が実施される年です。70年間培ってきた170万人の縁を結集し、人と人、人と地域をつなげるさまざまな思いから、「架け橋たれ」というテーマがあります。

代表 この「架け橋たれ」という言葉について、私はこのように捉えています。「架け橋をカケマシヨウ」ではなく、「架け橋はもうカカツテイマス」と。先生方はこれまでもずっと活動されてきたわけですから。門信徒もたくさんおられますし、地域にもすっかり認められています。それこそたくさん人の架け橋が、それぞれの道院で、も

う架かっていると思うんですね。

ですので、今回のテーマは「また新しいことをやってください」とお願いしているわけでは決してありません。ただ、「橋」は人の往来がないと「橋」とはいえませんが、せっかく苦労して架けられた橋ならば、そのままにせず、もつと賑やかにしませんか、というのが、今回のテーマだと考えています。

局長 架けつばなし、つくりつばなしではもつたないですからね。例えば休眠されたOBに声をかけたり、地域の方々をもつとお呼びしたり、やれることはちよつとしたことでも、できることは無限大に広がります。

道院長がつくつてこられた「架け橋」を、拳士や保護者、OB、地域の方々に関係者……、さまざまな人が往来しているシーンが、思い浮かんできました。

師家 私も今思い浮かんだのですが、例えば瀬戸大橋とかゴールデンゲートブリッジとか、実際の橋もやっぱりメンテナンスが大事なんですよ。橋の上ではいろんな人や車、列車が走っているんですけど、同時進行で、高架下では一生懸命ボルトを閉めたり補強したりと、人知れない手直しがされている。そして向こう岸までやつとた

どり着いたときには、ちよつと元来た岸側のメンテナンスにからなきやいけなくなっているところで(笑)。

局長 終わらないですね(笑)。

代表 だからこそ、後継者づくりも大切なんです(笑)。しかしこういったことは、大変ですがやりがいにも満ち溢れています。道院長もそれをご存じで、頑張っておられます。われわれ本山は、それをしっかりとサポートしなければいけませんね。

このすばらしい活動を後世にずっとつなげていくためにも、共に架け橋づくりに邁進していきましょう。





開祖語録 ダイジェスト

1975年9月
指導者講習会



私は、「少林寺拳法で生きがいを与える」と言ってきた。

諸君がね、生きがいをまず見つけるということは、自分を発見することなんだぞ。禅宗の極意は、自己の発見だといわれておる。

それはどういう自己かというと、ダーマの分霊を持つているということが、素直に分かるということだ。

で、欲望のままに行動しないで、自分も幸せになるが、周辺の人にも幸せになつてもらえるようにやらなければならん。そう自分が思うようになったら、生きがいというのは見つかるのである。

私が少林寺を建立した目的はいくつかあるけれども、その中でいちばん強調しておるのは、天皇の家来でもないが、神の僕でもない、ダーマの分霊を持った自己を発見させることである。そのすばらしいダーマの分霊を持つ一人ひとりの人

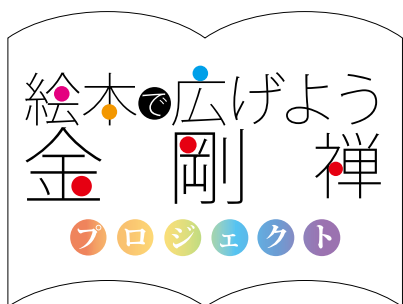
間が、われわれは縦割り民族として、縦にしか教育されていないから、横の人とつながって、横との連携の中で一つの幸せを見いだそうと。それが少林寺拳法の最大のねらいなのです。

だから、少林寺拳法が今、最大・最重要にやるべきことは、横に助け合える、手を携えて、そうして共通の利益のために、幸せのために、行動できる体制づくりをやりたい。これは、何かあったときに必要なだし、いちばんまた役に立つのです。

われわれの拳の道を行じて、しかも同じところで、同じ目的を持って行動している者同士だけでもそれができれば、私はいいと思う。「同志相親しみ」とは、それをいつているのです。

*この開祖語録中の「少林寺」は、金剛禅総本山少林寺を意味しています。

横との連携の中で幸せを見いだそう



滋賀新旭道院

磯部 亜希

子供の世界

「きょう、絵本するよ〜」「やったー!」。今回は3冊。『おえどのおなら』で笑顔いっぱい。『しんでくれた』で感じてもらい、『でるでるでるぞ ガマでるぞ』で笑いと感性、という構成に。

私が重点を置いたのは、『しんでくれた』。この絵本を選ぶとき、「こんな読んでもいいのかな〜」という、私の大人の頭が働きました。タイトルも内容も衝撃的だった

からです。「怖いかな? 読んでもいい?」「いいよ〜! 怖くなんかない!」。実際に読むと、子供たちは真剣。子供の心の世界を少し覗くことができ、私の頭の固さを知らされました。今の世の中はきれいにされすぎて、見えにくいことが多いです。殺される動物、動物を殺す人、その命の上に生かされている自分。現実を見る目を持ってほしいと伝えました。

終わったあとは、恒例のおしゃべりタイム。口々に話す子供たち。そんなことまで知っているの? と、また子供たちに驚かされる時間となりました。

今回読んだ絵本

◎しんでくれた

詩: 谷川 俊太郎 / 絵: 塚本 やすし

◎おえどのおなら

作: おちのりこ / 絵: まきの いさお

◎でるでるでるぞ ガマでるぞ

著者: 高谷 まちこ



つなかりの創出にチャレンジする——。

がえのないつなかり(架け橋)の中で生きています。

りを深め、新たな人や、地域や、世界へと次なる橋を架けていく、
を私たちひとりひとりが持っています。

林寺拳法創始70周年を機に 共に考えたい三つのこと

人

さらに、いつまでも続く
人と人との関係を築く

本事業をきっかけに、これ
までの道院の歴史を支えて
きた懐かしい拳士や後援者
と、その縁を大切に育ん
でいきましょう。そして、
その縁を生かすことによっ
て、道院だけでなく地域の
発展にもつなげていきま
しょう。

架け橋たれ

社会

いくつもの小さな幸せを
提供する

仲間がいる、笑顔で話し
かける、新しい物事や自分
の成長に出会える……道院
はそんな幸せが溢れている
小さな社会です。今、社会
にはそんなオアシスが求め
られています。道院から社
会へと、オアシスを広げて
いきましょう。

いつの時代も社会に貢献できる組織であ
るために、次なる時代を読み、勇気を持って
新たな取り組みにチャレンジしていきま
しょう。志を持ったそんな行動が未来への
架け橋となります。

常に進歩し続ける

組織

特集②

少林寺拳法創始 70 周年テーマ

「架け橋たれ」

新たな

誰もが、かけが
今あるつながり
そんな可能性

創始 70 周年記念事業の主な行事

2017年

1月

新春法会、
70周年オープニング
(7~8日)

皆で新しい年を祝い、周年事業の
スタートを切りましょう。

5月

開祖忌法要、帰山(14日)
宗道臣デー月間

7月

世界大会
in カリフォルニア
〈アメリカ合衆国〉(29~30日)

「自ら架け橋となろう より良い世界を、ひとりひとりから」
の大会テーマの下、世界の拳士たちと
心のふれあいを楽しみましょう！

【WSKO行事】

6月

金剛禅講習会
〈本山〉(3~4日)、
〈山形〉(17~18日)

互いを尊重しあう心を磨く教えと
技法を、仲間たちと研ぎ合います。

9月

金剛禅講習会
〈大阪〉(9~10日)

10月

達磨祭法要(7日)

10月25日
少林寺拳法創始の日

11月

ブルースカイキャンパス
in 多度津(4~5日)

少林寺拳法発祥の地、香川県・多度津町で、
コラボレーションという名の架け橋を！
多くの方が「知る」・「学ぶ」・「楽しむ」ことが
できる青空の下、大博覧会を
味わってください。

2018年

2月

謝恩レセプション
〈東京〉(17日)

お世話になった皆様とともに
70年をふり振り返り、創始80周年への
決意を誓い合います。

特集③

「道院の可能性」

人々が集まり、人々が元気になる場所

本特集では、金剛禅の布教と人づくりの拠点として、各地の道院でどのような取り組みをしているのか。今回は秦野道院（神奈川県）と奈良宝来道院（奈良県）、二つの道院にスポットを当て取材を行いました。

秦野道院（神奈川県）

閑静な住宅地に建つ秦野道院は1971（昭和46）年に故谷村斌道院長により設立され、2010（平成22）年より3代目となる飯田昌一道院長に引き継がれています。

少年拳士の主座

修練日は週3回で、うち土曜日は、午前と午後2回修練を行っています。修練では開始前から少年拳士が集まり始め、飯田道院長の補助で、飛足刀蹴、ハンドスプリング、大車輪を行い、楽しく遊ぶように体を動かしていました。

その後、少年部の修練がスタートしますが、鎮魂行、ウォーミングアップ、基本をリードするのは少年拳士

たちです。「道院は人をつくる場所。リーダー育成は当たり前。だから、たとえ少年拳士であっても、人前に立てるようにしてもらいたい」と話す飯田道院長。

しかし、少年拳士が前に立つことが最初からうまくいったわけではありませんでした。飯田道院長が交代した当初は、子供たちに主座を行わせても、押しつけ合ってしまう、うまくいかなかったそうです。しかし、根気よく続けていくうちに、自らやりたいと手を挙げる子供たちが増えていき、今では当たり前のように行うようになりました。「いつかは自分もあんなふうになり立つ。そうイメージできている子は、黄色帯でも立派に主座を務めることができます」

このように拳士たちの主体性が育まれていくこともあり、「見学に行った

とき、うちの子がなじめるか不安があったのですが、すぐに少年拳士たちが輪の中に入れて遊んでくれ、早く溶け込むことができました」と喜ばれる保護者もありました。



一般は補佐に

SNSの活用

保護者といえば、最近はママ友ネットワークの影響がすごいと取り沙汰されています。秦野道院もそれは例外ではなく、拳士たちの入門時期はまちまちですが、あとで聞くと、保護者同士がSNSでつながっていたということが珍しくないそうです。そのような背景もあり、秦野道院では広報ツールとしても連絡ツールとしてもSNSを多く活用しています。フェイスブックなどを活用すれば閲覧状況を知ることでもでき、ニーズの分析にもなるそうです。また、メール連絡は修練日の定時送信機能や行事参加でアンケート機能のある有料サービスも利用するなど、修練以外のときにも道院長と拳士、保護者がつながる工夫がなされていました。

担当／富田雅志

道院をまほろばに

少年拳士が主座を行う間は、大人の拳士はサポート役に徹し、ミットを構えたり、補助をしたりと一緒に修練の輪に入ります。

特に印象的なのは、子供たちの動きを止めさせたり、修練の流れを途切れさせたりしないよう、「いいよ」「もう少し」「惜しい」などの声かけが主体で、否定的な声が見られなかったことです。常に大人たちが見守っていてく

れるから、安心して生き生きと修練に取り組めるようです。

そして後半の修練は、大人の拳士が資格ごとについて指導を行います。さらに修練終了後、茶帯以上の拳士は30分の追加修練を行っています。そうすることで、少年拳士に任せきりにならず、茶帯以上の拳士は集中して修練に取り組み、次のステップにつながる自覚が生まれる仕組みができていました。一般の修練時間は少年部の追加修練が終わってからとなりますが、少年部

そうです。

東浦道院長の人生は常に少林寺拳法とともにありましたが、開設した場所では「少林寺拳法」の知名度がないことに驚いたそうです。「武道の一つというイメージがあるならともかく、見学に来た大半の人が、少林寺拳法という単語そのものが何を表しているか分からなかったんです」

東浦道院長の奥様、留美夫人のママ友ネットワークにより、未就学児である娘のひなたさんと同年代の子供がたくさん集まり、小学校低学年が中心ではありますが、現在は小学生が16人、一般も含めると25人の拳士が在籍しています。そしてひなたさんも自然と拳士になったことから、父・勝廣さん、

のみ参加する拳士もいるぐらい、少年部の指導に協力的でした。飯田道院長がやむをえず仕事で道院に行けないときには、大人の拳士が自主的に声をかけ合って、時間のやりくりをして駆けつけてくれるそうです。



飯田道院長の法話

*まほろば＝古い言葉で、住みやすい場所、すばらしい場所の意。

奈良宝来道院(奈良県)

奈良県北部に位置する奈良宝来道院^{ほうらい}は、奈良中央道院出身の東浦寿成道院長が2015(平成27)年に設立した道院です。

新しい地での道院開設

東浦道院長は父勝廣さんと一緒に入門し、小学生のときから少林寺拳法に慣れ親しんできました。そして親子で念願であった専有道場を建て、道院を開設しました。

専有道場の開設にあたってはたくさんの方の法縁有志の助言や協力があり、開設には大勢の人がこの地に集まった

東浦道院長、娘ひなたさんと親子3代が現役の拳士となっています。



グループごとに分かれての修練

道院の思い出

少年拳士の保護者たちが道院長夫人のママ友ということもあり、修練や運営についても率直な意見を聞くことができ、またSNSの活用により保護者同士の結び付きが強いのも奈良宝来道院の特徴です。

また、夫人が道院長のよきサポート役となっていることは、道場の本棚に置かれた数冊のアルバムからも分かります。このアルバムは道院で行われた儀式や行事で撮影した写真に、そのときの雰囲気や伝わるように、コメントを付けて丁寧に整理し、装丁したものです。「今や写真は撮ったらデータとして残りますが、データで保存したあ

とはなかなか見なくなってしまう。しかし、こうしてアルバムになると、飲食を伴う集まりの折に、皆で見ることができ、会話も弾み、大変盛り上がります」と東浦道院長。

さらには、道場の壁面にも行事の写真がたくさん飾られています。設立して丸2年の道院ですが、このように思い出と歴史が刻まれつつあることが感じられます。

修練においては、東浦道院長の父勝廣さんを含め、少年部の修練から参加してくれる大人の拳士もいます。時には鬼ごっこで保護者の方が一緒に参加することもあります。トレーニングの一環としてリレーを行うときには、大人の拳士が手を叩いて場を盛り上げ、休憩時間中も大人の拳士と一緒に遊ぶことによって、道場の中が元気で溢れていました。

達磨祭のときには、小教区内の道院と合同で法要を行い、法要後のお楽しみとして、幹部がゲーム大会を企画しています。いくつかあるゲームの一つとして、約30人で「だるまさんがころんだ」を行うことになったそうですが、「30人で一体どうやるんだろう、うまくいかなかったらどうしようか、と内心とても心配しました」と東浦道院長。しかし、いざ任せてみると、当日は大盛り上がりで、拳士たちからは「次は、

いつやるの」と言われ、「これで、来年も達磨祭に来てもらえる」と思ったそうです。

宗道臣デーでは、道院長が活動内容を決めるのではなく、拳士たちがやりたいと言ったらやろうというスタンスで行われています。「最近、大きな地震があったけど、どう思う？」と問いかけたところ、すぐさま「募金やりたい」と子供たちが言い、駅前での街頭募金の実施が決まったようです。「私としては、何回か地震の話をしたあとでない」と意見は出てこないだろうと

思っていたところ、即答が返ってきて大変驚きました」

募金活動の当日は、スタートから全力で声を出し、たくさんの方の善意を集めることができたようです。「当然といえば当然ですが、知人から『少林寺拳法の道場らしくていいね』と言ってもらえたときには嬉しかったですね」

「道院に集まるメンバーで社会に役立つことができるのは大変嬉しいことです。今の時代だからこそ少林寺拳法が必要だと思います」と東浦道院長は語ってくれました。

二つの道院の特徴と共通点

秦野道院

- ・「少林寺拳法」の存在が認知されている地域。
- ・年齢層が小学生、中学生、高校生、大人と幅広い。
- ・少年拳士には人前に立てよう積極的に主座を行わせている。
- ・特に、目線を合わせ、拳士の発言に耳を傾けるようにしている。
- ・宗道臣デーは、使用済み切手など、1年通して収集できるものを活用し、参加意識を高めている。



共通点

- ①門信徒の自主性や自由な発想の尊重。
- ②門信徒が楽しそうで表情が生き生き。
- ③専有道場での主体的な行事の企画。
- ④幹部が少年部の時間に積極的に参加。
- ⑤ママ友のネットワークや、SNSの有効活用。

- ・「少林寺拳法」の認知度がほとんどない地域。
- ・少年拳士は低学年が中心(未就学児含む)。
- ・長期的な視点で接し、問いかけ、考えさせるようにしている。
- ・皆の「やりたい」という気持ちを大事にしている。



- ・皆が閲覧できる行事ごとのアルバムを作成。
- ・儀式、行事を積極的に活用し、楽しく集まれる工夫を凝らしている。

奈良宝来道院

まとめ

今回、二つの道院を訪問し、その活動の一部を紹介させていただきましたが、全国でも同様の活動や、ほかに工夫をされている道院もあるかと思っています。それぞれの地域で皆様の道院が、新たな歴史を着実に刻み、次の時代へとつながっていくことを願っています。



基本修練の様子

編集後記▶「特集」で宗由貴総裁が自然体のことを話されています。技でも同じで、いろんな状況に柔軟に^{はら}応じられるのは、安定した中心があつてこそ。そして^{はら}肚も据わっていればこそその自然体です。道院布教でいえば、金剛禅や創始の目的がしっかりと腑に落ちているということでしょうか。▶この原稿のことを考えていたとき、福島県沖でまた大きな地震が発生し、津波警報が出されました。幸い大きな被害はなかったようですが、諸行無常、いつ何があるか分からないのは自然界も人の世界も同じこと。人の世界はなるべく想定外がないように、あらかじめの制度や共通の習慣で成り立っていますが、それでも「備えあれば憂いなし」、何があってもいいようにふだんからの備えが大切です。▶小さな想定外くらいには自然体で^{はら}応じられるよう、日々の仕事も生活も、心の修養とともに想像力を巡らせておきたいものです。(さ)表紙▶三野 智大 北海道出身。専門学校札幌ビジュアルアーツ卒業。2016年3月より「ダーマ」をテーマに『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。正拳士四段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>
代表法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅

検索

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol. 50

2017 睦月・如月

2017年1月1日発行(奇数月1日発行)

発行人: 大澤 隆

発行所: 金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人: 坂下 充

印刷・製本: 牟禮印刷株式会社

広報誌「あ・うん」追加発送について

現在、広報誌「あ・うん」は、道院の在籍門信徒数に応じて10~20部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎号ご提供させていただいております。さらに追加をご希望の方は、本山宗務部にお申し出ください(追加1部につき50円・送料別途要)。

TEL.0877-33-1010

e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

2016年10・11月度 認証

●道院長交代
杉並永福道院 分藤 秀明
石神井東道院 前田 保男

行橋中部道院 河村 勝則
米沢道院 川合 修一
大垣道院 松原 光孝

僧階昇任者

中導師

■2016年10月1日付
北野 英雄(相模大野道院)
荒井 信章(川崎東道院)

宮本 富博(生駒北道院)

■2016年11月1日付
土屋 晴彦(埼玉蓮田道院)

法階昇格者

准範士

■2016年9月18日付
大味 潤(東京試衛館道院)
小瀧 森久(江東砂町道院)
野口 幸男(江東砂町道院)

大川 良生(江東砂町道院)
鈴木 大忠(浜北道院)
浅井 昌典(浜松渡瀬道院)
塚本 敏博(西陣道院)

お布施

本山帰山記念

▷三重上野道院.....20,000円
▷三重壬生野道院.....20,000円
▷京都衣笠道院.....10,000円

布施

▷東京小平道院 久保田 勲.....100,000円
▷大阪白鷺道院 佐々木 正.....50,000円
▷阿南橋道院.....50,000円
▷豊田末野原道院 服部 俊美.....10,000円
▷川西中部道院 丸野 俊一.....10,000円

▷苫小牧中央道院 住江 忠則.....5,000円
▷三豊市文化財保護協会高瀬支部.....5,000円
公認講習会
▷福島県教区.....30,000円
▷栃木県教区.....30,000円
▷埼玉県教区.....30,000円
▷山形県教区.....30,000円
▷山梨県教区.....30,000円
▷福井県教区.....30,000円
▷茨城県教区.....30,000円

訃報

にしむら ますお

西村 萬壽雄 大阪住吉道院道院長、233期生、大導師正範士八段
2016年11月25日逝去、満73歳

▶ 金剛禅総本山少林寺大整備事業への寄付金ご協力のお願い ◀

今後、80年、100年と建物を維持していくために、このたび、鍊成道場修繕工事をはじめ大雁塔修繕工事など、大整備事業を実施いたします。皆様の寄付金ご協力をお願いいたします。

(1)寄付金

一口10,000円以上(何口でも可)

(2)振込先

①銀行振込

- 銀行名: 百十四銀行
- 支店名: 多度津支店(店番275)
- 貯金種目: 普通預金
- 口座番号: 0976596
- 口座名義: 金剛禅総本山少林寺 大整備事業

②郵便振替

- 口座番号: 01660-6-133139
- 口座名義: 金剛禅総本山少林寺 大整備事業

③他銀行から振り込む場合

- 銀行名: ゆうちょ銀行
- 店番: 一六九店(169)
- 貯金種目: 当座
- 口座番号: 0133139
- 口座名義: 金剛禅総本山少林寺 大整備事業

(3)問い合わせ

金剛禅総本山少林寺 総務部
☎0877-33-1010(内線140)

※寄付されました方には、落慶後に記念品を進呈するとともに、銘板にご芳名、団体名を記載させていただきます。



Ryu Ka Ken, Maki Gote



宗門の行としての少林寺拳法

りゅう か けん まき ご て
龍 華 拳 巻 小 手

うでぎやくどり 腕逆捕に対してかぎて 鉤手守法で相手の攻撃を止める。その際、腕逆捕の引き込みに
さば 体捌きを合わせ、相手の正中線上に位置すると技が掛けやすくなる。

あてみ かけて 当身から掛手を行い、右手を内に倒して相手の手首に巻きつけるがごとく我の手
首を返すと、相手の体が崩れ出す。掛手を引きつつ足を捌いて投げる。

撮影／加々見一 文／永安正樹 演武者／守者：倉本亘康 准範士六段 攻者：富田雅志 大拳士五段



SHORINJI KEMPO
少林寺拳法